

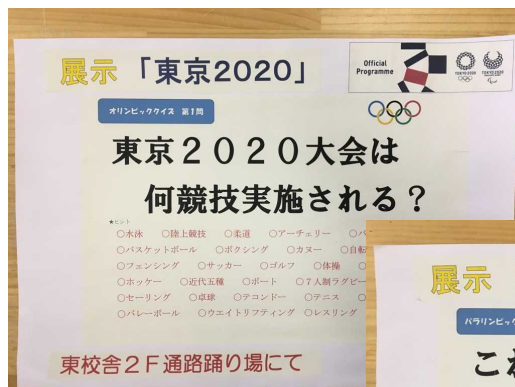
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立岐阜聾学校 事業実施報告書②

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I ・ V 】
2 実施対象者	岐阜聾学校 幼児児童生徒及び、職員、保護者 本校学校祭『岐聾祭』の来場者等
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (本校学校祭『岐聾祭』の展示) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピック及びパラリンピックに関する展示物や『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料 児童生徒編』DVDの視聴を通して、オリンピックの意義や歴史について知り、興味関心を持つこと。 ・オリンピックの意義や歴史について知り、興味を持つことで、よりスポーツに対する興味や関心を高めること。
5 取組内容	(1) 事前学習 ・学校祭前に展示『東京2020』のポスターをクイズ形式で作成し、校内に掲示することで、多くの人に展示内容を見てもらえるようにする。



(2) 事業当日

- 学校祭当日、オリンピック及びパラリンピックに関する内容とクイズ形式のポスターの答えを展示し、『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料 児童生徒編』DVDを上映し、聞こえにくい本校児童生徒も興味関心がもちやすいように、また理解を深められるように字幕付きの映像とする。



(3) 事後学習

- 学校祭後は、オリンピック及びパラリンピックに関する内容等の展示物のみ掲示し続けることで、学校祭当日にゆっくり見られなかった児童生徒にも、展示物が見られるようにする。



6 主な成果

- 学校祭当日は、展示場所に足を止め、興味関心をもって展示物を見る生徒や来場者の姿もあり、2020年の東京オリンピックやパラリンピックに、興味関心をもつ機会となった。
- 学校祭後に、中学部生徒へ『タッピング棒』の写真を見せ質問したところ、『タッピング棒』という名称は答えられなかったが、視覚障がい者の水泳競技で、壁があることを知らせる棒であることを答えられる生徒が多く、パラリンピックについて知る機会となった。
- 2020年の東京オリンピックの際には、どのように関わるつもりか聞いたところ、『競技会場で見たい』とか『できれば選手として出場したい』、『自分がやっているバレーボールと好きな水泳競技をテレビで観戦したい』など、スポーツへの関わり方について考える機会となった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・ポスターをクイズ形式で作成することで、その答えの確認のために展示会場へ行き、答え合わせができるようにして、多くの人に展示内容を見てもらえるようにした。 ・『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料 児童生徒編』DVDを上映では、特別支援学校編を中心に上映し、聞こえにくい本校児童生徒も理解しやすいよう字幕のある映像を上映した。 ・学校祭の展示では、ゆっくり展示物を見ることができなかった児童生徒のために、オリンピック及びパラリンピックに関する内容等の展示物を掲示し続けた。
8主な課題等	・学校祭後も掲示し続けている展示物の定期的な内容の更新を行うこと。 ・また、内容の更新の際に、それぞれの児童や生徒の興味関心等の実情に合わせた掲示物を作成すること。
9来年度以降の実施予定	・展示内容を検討、そして展示方法を工夫して、来年度も実施できるように、準備を進めていきたい。